



## ロータリー財団委員会

委員長 八田 憲明

高松グリーンロータリークラブも創立30周年を迎えることになりました。

論語 為政篇 第二の4番目で孔子は、15歳を「志学(しがく)」、『吾十有五にして学に志す』(私は15歳のときに学問で身を立てようと決心した)

その後、30歳を「而立(じりつ)」、『三十にして立つ』(学問の基礎かできて自立できるようになった)と記しています。

平田会長の所信にも、「今期は事業を行うというより、次年度にどのように実施してもらえるかを計画し、託すことを考えてください。過去の取り組みの上に、どのように変革していくか、次にバトンを託すのが、今年度の目標です。」と記されています。各委員会へも「見直す」、「理解を深める」、「検討する」の言葉が多く見られます。

2016年から始めた『骨髄バンク応援団「命の授業～救える命なら助け隊～」』の事業も継続事業として6年目、第2670地区 地区補助金事業5年目を迎えます。その間、県下各大学、専門学校、高校等に広報・啓蒙活動を進めてまいりました。

しかし、以下のような問題があります。

- ・「骨髄移植」に必要なHLA型の適合確率が(数百分の1～数万分の1)と極めて低い
  - ・登録～適合～移植までに長期間(時に数十年)を要する場合があるが、「ドナー」には55歳の年齢制限がある
  - ・「骨髄」採取方法、身体への影響(リスク、後遺症)などに誤解がある
  - ・会社員の場合、企業側に社員をドナーとして送り出す仕組や体制が整っていない
- 等々の問題があります。

これに対して、以下のプロジェクトを行ないます。

- ・若年層(大学、高校生など)に「命の授業」(元 全国骨髄バンク推進連絡協議会会長(大谷氏)などの講演
  - ・献血時がドナー登録の機会なので、日本赤十字社の協力を得て、「命の授業」の際に献血促進啓蒙を実施
  - ・高松市「献血の日」イベント及びドナー登録会に会員が参加し、一般の方へドナー登録を呼びかける活動
  - ・当クラブ会員企業をはじめ企業へ「社員ドナー」に対する理解促進に加えて補助制度導入を提案
- また、骨髄バンクの啓蒙と同時に、臓器提供事業についても広報・啓蒙事業を行っていきたいと思っています。

そして40周年は「不惑(ふわく)」、『四十にして惑わず』(40歳になると、心に迷いがなくなった)となりましょう。